

ブラジルに根づく“NIPPON”

——日本人移民1世紀が伝え育てた日本文化——

■期間：平成21年 **10月20日[火]**～**12月20日[日]**

午前10時～午後5時(月曜日は休館、祝日の場合は翌日)

■会場：海外移住と文化の交流センター 1階ホール

入場無料

1908年、第1回の移民船笠戸丸は移住者を乗せ、神戸港からブラジルに出発しました。それから100年がすぎ、さまざまな苦勞を乗り越えブラジルに根をおろし、あらゆる分野で活躍する日系のみなさん。この間にブラジルに伝え育てたものに日本文化があります。そこには、いまの私たちが忘れてしまったものがあります。

100点近い写真から、ブラジル現地の様子が匂ってくるような写真展です。



焼きそばも人気



七夕祭りもにぎやかに



サンパウロ州モジダス・クルーゼス市内を通るゾトラ街道には、4車線をまたぐ大鳥居が建っている。

- 第1章 ブラジルに広がる日本の祭り
- 第2章 日本の心をいまに伝える伝統文化
- 第3章 暮らしに欠かせない日本の食文化
- 第4章 「友情の灯」—すべてはここから始まった



- JR・阪神「元町」駅より北へ徒歩15分
 - 神戸市営地下鉄「県庁前」より北へ徒歩10分
 - JR・阪神・阪急・地下鉄は、いずれも「JR三ノ宮駅浜側」から市バス⑦系統で「山本通3丁目」下車、北西へ徒歩3分、または「山本通4丁目」下車、東へ徒歩3分
- * お車の方は、当センター北側の有料駐車場をご利用ください。

主催：神戸市、財団法人 日伯協会

後援：兵庫県

協力：サンパウロ新聞社(ブラジル)、ニッケイ新聞社(ブラジル)